

2017年も全力でがんばります!

博多駅前の道路陥没事故 議会で原因究明に全力

倉元達朗市議と日本共産党は 2016 年の 12 月議会などで市の地下鉄工事による博多駅前の陥没事故の問題をとりあげ、原因究明や補償のあり方について市長を質しました。

誰に?
「腹わた煮え
くりかえる」
(市長の発言)

事故直後の市長による「はらわたが煮えくり返る」という発言について、市の地下鉄工事で起きた事故にもかかわらず、自らの責任を棚に上げ、他人事のようにふるまつたことを追及すると、市長は「交通局と施工業者と自分自身」に対する発言だつたと言い訳しました。

ただしましたが、市は「バ

国が原因調査のため設置した第三者委員会については、12名のメンバーの中に、福岡市のナトム工法採用を承認してきた専門家が2名、重大な設計変更を見逃した国土交通省の役人が複数入っています。共産党は「客観的検証になりえない」と

ただしましたが、市は「バ

た。

国で客観的検証できる?

事故当時の作業員の証言など情報公開をしぶる市を、12月21日の市議会第4委員会で倉元達朗市議が追及。

「これでは調査結果が正しいか誰も検証できない」と

ランスのとれた人選」などと答えました。

また、倉元市議も、国の第三委員会は「技術の専門家しかおらず、組織体質やコストの問題まで切り込めない」と組織学などの専門家を入れるよう迫りました。

過去にも陥没事故 おざなりな「再発防止」

高島市長のもとで2年前にも地下鉄工事で陥没事故を引き起こし、國から警告を受けていたのに、くり返されました。

共産党の質問で、このときなぜ「地

盤の改良不足」が起きたかという原因究明をしなかったこと、市の組織・体制・コストの問題などにまったくふみこまないおざなりな「再発防止」だったことが浮き彫りになりました。

倉元市議の質問にマスコミも注目

道路陥没問題での倉元市議の議会質問は 12 月 22 日のテレビ (TNC) のニュースや 11 月 17 日付の西日本新聞などで取り上げられました。



市議会報告

事故直後の現場で市の担当者から聞き取りをする日本共産党市議団と田村貴昭衆院議員、共産党県議団 (11月9日、右から2人目が倉元市議)

こんにちは
城南

議会報告 2017年1月

日本共産党

倉元達朗

市議



このビルへのご意見・
ご感想をお寄せ下さい

発行:日本共産党福岡市議団
福岡市中央区天神1-8-1市議会11F
責任者:星野美恵子

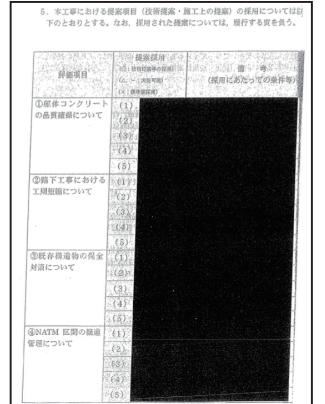
☎092-711-4734

@kuratatsu0711

ブログ「転がりつづける日々」
<http://jcpf1967.blog.fc2.com>

黒塗り資料、答弁拒否…

大成建設 JV の技術提案に関する中身を黒塗りで隠して議員に提出された市の資料



市は今回の事故について共産党の資料要求に対しても黒塗り資料を出し、事故現場にいた9人の労働者の証言報告を「非公開」と答弁したりして、

議場が騒然となりました。

事故前に市がもうけた専

門家の会議では、この地域で

「ナトム工法」と呼ばれる方

式を採用したことについて、

検討の際にも施工後

にも、多くの不安が

出されていました。

質問で判明。なぜよ

り安全な工法を選ば

なかつたのか疑問が

深まりました。

ただすと、市の担当者は「隠蔽とされるのは本意ではない」として「国と協議して可能な範囲で公開することを検討する」と答弁せざるをえなくなりました。

強力な 権限持つ 調査委を

日本共産党は、被害者へのすみやかに全額補償を行うよう要求するとともに、市議会の中に、法にもとづく強力な権限を持つ調査特別委員会(百条委員会)を設置するよう呼びかけました。

無料 法律・生活相談会

2月3日(金)
3月3日(金)
午後7~8時
六ヶ町会館 別府5-4-8

2月15日(水)
3月15日(水)
午後7~8時半
倉元達朗事務所
長尾 1-16-19 ☎865-0688

生活保護、相続、訴訟、離婚、
借金、架空請求、成年後見、行政相談などお気軽にどうぞ。
弁護士・司法書士が同席します。

どう思いますか？

高齢者乗車券を切りぢぢめてポイント制に…

昨年5月の市保健福祉審議会で「福岡市保健福祉総合計画」が審議されました。

この中で、高島市政が「配る福祉から支える福祉へ」などと言って高齢者乗車券の縮小を検討していることが明らかになりました。

「健康づくり」「地域活動」している人にポイント？

具体的には、右上の市が示したイメージ図をごらんください。

まず対象者全員に「基礎ポイント」を付与し、これに加えて、「健康づくり」をしている人（病院や介護保険を利用しなかったなど）や、「地域活動」（町

～再構築のポイント～

高齢者乗車券

外出支援
年額
12,000円
※70歳以上

インセンティブポイント制度

健康づくり
地域活動等
(インセンティブ化)

福岡市の保健福祉審議会(資料)より

買い物・通院等
移動支援

内会など)をしている人に「インセンティブ」、つまりポイントを上乗せして差をつける、というものです。従来の年額1万2000円の高齢者乗車券は縮小されます。

できない人に劣等感を与える

倉元市議は、この問題を審議会で追及。「『健康づくり』や『地域活動』ができる人に劣等感を与え、高齢者に分断を持ち込む」として、高齢者乗車券の改悪をやめるよう迫りました。

くらもと's EYE 倉元の眼

倉元達朗がお話しします！

2月5日(日)

午後2時～

城南市民センター

どなたでも
お気軽に
どうぞ(無料)

第1・第2会議室

自民党の小泉進次郎議員も、健康づくりをした人には病院の窓口負担を引き下げる「健康ゴールド免許」という差別的な制度を提唱して批判を浴びましたが、「健康保険を使う人は自己管理ができていない」という同じ思想だと思います。ペナルティ(罰)や格差をつくって、医療や福祉のコストを削ろうとする考え方方は許されません。



新年度予算への要望

日本共産党福岡市議団は、昨年12月9日、「2017年度福岡市予算編成に関する重点要望」を、市長と教育長に提出しました。

安倍政権が戦争法、原発再稼働、TPP、年金カット、カジノなどの暴走を続ける中、高島市政はそれと一体になって、国家戦略特区での規制緩和、ウォーターフロントや「天神ビッグバン」などのムダな大型開発に突き進んでいます。

予算要望では、こうした路線をあらため、市民の暮らし・福祉を守る、自治体本来の役割を果たすよう要求。認可保育園の増設、国民健康保険料の引き下げ、住宅リフォーム助成の創設など、切実な声をもとに318項目の市民要求が掲げられています。

予算要望の一例

全文は
ホームページで
ご覧になれます
<http://www.jcp-fukuoka.jp>

子どもの貧困対策を
充実し、削減目標
などを定めること

ヘイトスピーチ
根絶へ条例
制定ふくめ
断固たる
対応を



特養ホーム増やし
希望者は入所を

小中学校 普通教室

暖房使用が実現！

特別教室などへの設置に引き続き全力

この冬から市立小中学校の普通教室でエアコンの暖房使用が認められました。

昨年、倉元市議は学校現場からの聞き取りなどをもとに、「朝が特に寒く、手足の先が無感覚になり、鉛筆をまとまに握れない」などの声や「衣服での調整」

が不可能な実態を調査。学校環境衛生基準などを示し、暖房使用を求めて議会で論戦を行いました。

市民と共に共同が開いた成果です。引き続き、特別教室などへの冷暖房設置を求め、全力でがんばります。